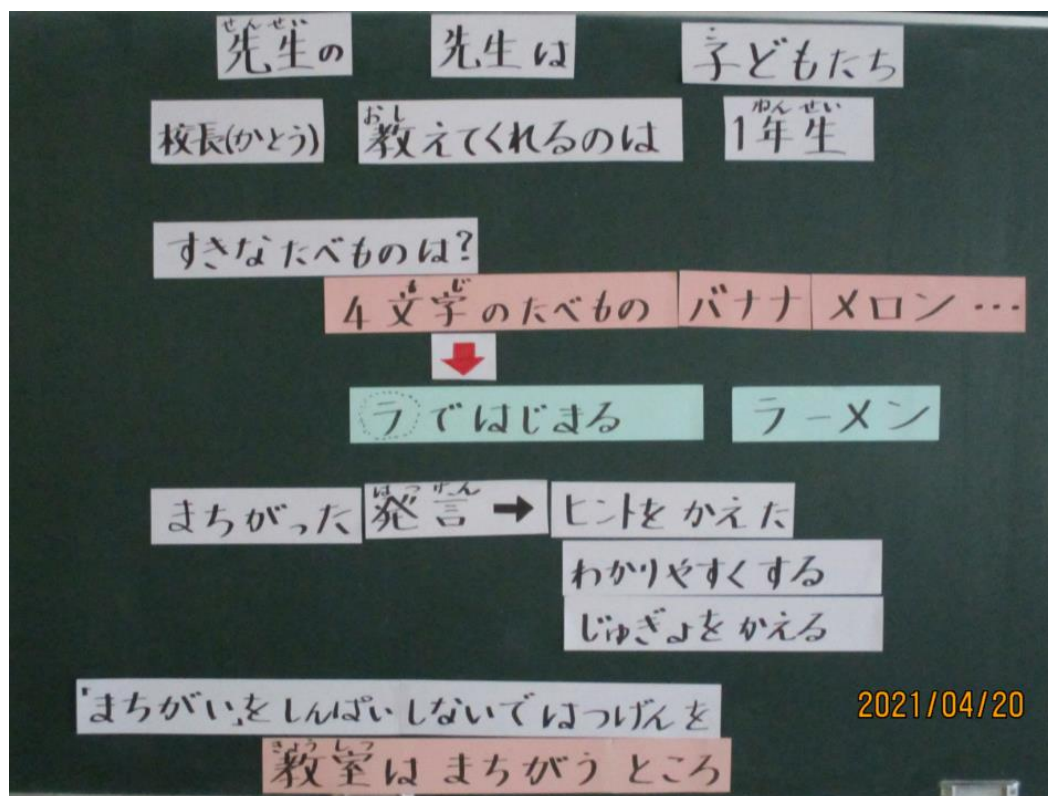


みずくらいど

校長 加藤雅弘

先生の 先生は 子供たち



左の板書は昨日のズーム朝会のもので、教室で見る側からは白く光ってカードの文字が見にくかったとの声が聞かれましたので、この通信でも再度取り上げるとともに、保護者の皆様とも共有します。

土曜日1年生は生活科の学習で学校探検を行いました。校長室にも訪れ質問をしていくグ

ループもありました。その時の一コマです。「好きな食べ物は？」に対して、私はヒントを出して考えてもらいました。「4文字の食べ物だよ」とすると「バナナ」「メロン」という答えが延々と…。私は4文字という概念と食べ物の名前の文字数を結びつけることは1年生には難しいのだなと思い知りました。そこでヒントを「ラで始まる」に切り替えたところ、なんと「ラーメン」という正解にたどり着きました。

まちがった発言が続いたからこそ私はヒントの不適切さに気づき、自分のヒントを修正しました。その結果「分かる」にいたりました。つまり、1年生が私の先生となって教えてくれたわけです。これは日常の授業でも同じです。みなさんの発言によって先生方はこのまま進んでいいのか判断しています。授業が終わってノートを集めた時には、書かれた内容の状況によって次の授業をどのように修正するかを考えます。ですからまちがっていても発言したりノートに自分の考えを書いたりすることは重要です。

「教室はまちがうところ」には、このような価値もあるのです。

<朝会話を基に構成しました>